

地域をワクワク・ドキドキさせる

つづいてのパネルディスカッションでは、日本ジオパーク委員会委員の中川和之氏を司会に、県内のジオパーク関係者4名による意見交換を行ないました。

ジオパークに取り組む地域の住民がどのように、“ワクワク、ドキドキ”してきているかをそれぞれの立場からご紹介いただきました。どの地域もジワジワと盛り上がり広がってきていることがわかりました。ディスカッションの様子は八峰白神ジオパークのホームページから見るができます。(各種情報のページ)

そして最後に、会場の皆さんの「自分には何ができそうか」、「何に期待したいか」を紙に書いて会場のホワイトボードに貼ってもらいました。

- ・自分の地域のジオ（宝）を自分の子供や家族にしっかり伝えていく。
- ・いろいろな立場の人たちにアイデアを募集するとおもしろいことができそうです！どんどんいろんなヒトを巻き込む会を作ってほしい！



皆さんのジオパークへの“期待”

などジオパークに参加したい人の声が多数寄せられました。このような意見も参考にしながら今後は地域全体が盛り上がり上がるような活動を展開していきたいと思えます。

八峰白神ジオパーク推進協議会

〒018-2612 秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116 旧岩館小学校内 ☎0185-78-2427

八峰白神ジオパーク～日本ジオパーク認定までの道のり～

平成22年5月 八峰町ジオパーク推進協議会設立。

八峰町ジオパーク構想を掲げ活動を開始する。
日本ジオパークネットワークオブザーバー登録。

平成23年4月 峰栄館内にジオパーク推進室を設ける。

モデルツアーや出前講座など活動を本格化させる。
□マークが決まる。

5月 日本ジオパークネットワーク 準会員登録。これにより、日本ジオパーク加盟申請の資格を得る。

8月 八峰白神ジオパーク推進協議会に名称変更。

平成24年4月 旧岩館小学校内にジオパーク推進室を移転する。

☆日本ジオパークネットワーク加盟認定審査にのぞむ☆
4月 加盟認定申請書を提出する。

5月 公開プレゼンテーションを行う。(幕張メッセ)

8月 現地審査を行う。(八峰町内)

日本ジオパーク委員2名によって、町内のジオポイントの様子や活動の状況を審査される。

9月 認定審査結果発表。日本ジオパークとして認定される
11月 認定書授与式(高知県室戸市・室戸ジオパーク)

連載

第23回

八峰白神ジオパーク

日本ジオパーク認定記念セレモニー ～ジオパークが地域に与える影響～

を開催しました



八峰白神ジオパークが日本ジオパークに認定されたことを記念して12月2日にセレモニーを開催しました。「ジオパークが地域に与える影響」をテーマに、県内外のジオパーク関係者による講演や、意見の交換を行ないました。

ジオパークは“漢方薬”

基調講演では山陰海岸ジオパークで活躍中の鳥取環境大学の新名阿津子さんが講師を務められました。山陰海岸ジオパークは3府県6市町村にまたがり、2010年には世界ジオパークに認定されています。

まず、「ジオパーク」については、地球で起こっている様々な要素を“時間と空間を超えて考え、つなげていくモノの見方”であると説明。「地質・地形」だけに注目するのではなく、地域のこと全体のつながりを感じ、深く理解できる取り組みであると述べられました。

また、地域振興については、「ジオパークは特効薬ではなく漢方薬」。始めたからといって勝手に観光客が増えるというのではなく、地域が徐々に良くなっていくものである、と薬に例えて説明。そして「ジオパーク認定はゴールではなくスタートライン」であり今後の皆さんのがんばりが重要になると述べられていました。山陰海岸では研究者、ガイド、観光業、地域団体など各分野の方々が積極的に参加し、学校教育、生涯学習、観光にジオパークが活用されています。観光商品としては山陰線(鉄道)を利用したジオライナーやジオ弁当などが商品化され、地域を訪れる観光客の方に提供されているそうです。

一般町民・市民の方々の意識にも、「地域には何もない」から「あれもある、これもあるぞ」と地域を見直す変化が起きたそうです。

講師の新名さん

